

2020（令和2）年度 マリヤこども園学校評価実施要項

2020年4月1日制定

[目的]

- 学校（こども園）として組織的・継続的な改善を図ること
- 学校（こども園）・家庭・地域の連家協力による園づくりを進めること
- 一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること

[評価]

- ① 自己評価は、当こども園の多職種（保育教諭、栄養士、看護師、事務職員、一時預かり専任者等）によって行い、設定した目標や計画に照らし、その目標の達成状況や取組の状況について評価を行う
- ② 学校評価関係者評価は、マリヤこども園に在籍する園児の保護者代表と地域住民及び姉妹法人の園長等が自己評価の結果に基づき、評価と助言を行う
- ③ 5年ごとに外部の専門家を中心とした第三者評価を実施し、専門的視点からの評価を受ける

[評価時期]

教職員による自己評価	年1回	11月に通知し、一月に実施
評価委員による評価	年1回	11月に通知し、一月に実施
第三者評価	5年ごとに1回	2012年/2017年/2022年

[公表]

学校評価の結果について、保護者及び地域住民にHPを通じて公表する。尚、公表時期については、実施した翌月とする。

[評価委員とその任期]

自己評価者

太田礼子園長、岩崎千佳子主幹保育教諭、坂本公美保育教諭、剣持奈美保育教諭、神林聡子保育教諭、高橋咲帆保育教諭、庄子未恵保育教諭、千葉佳奈子保育教諭、大木礼子栄養士、安藤暁子看護師、岩崎知美事務員、西尾ゆき保育教諭（一時預かり専任）

評価委員

(1) マリヤこども園に通園する園児の保護者	保護者会会長 保護者会副会長	田中 真奈美 廣田 有紀
(2) 地域関係者	民生委員 民生委員	山野 洋司 鈴木 寛昌
(3) 当園以外の職員	千葉県千葉特別支援学校教諭 学校法人堀口学園 昭苑こども園園長	熊崎 友希 堀口 義也
(4) その他、園が必要と認めたもの		

評価委員の任期は委嘱の日から当該年度末とし、再任を妨げない。

2020年度の教育活動等に対する学校評価書

1. 保育の方針と目標

全ての人は例外なしに、「神によって創造された存在である」という理解に立って、神を愛し、自然を愛し、人間を尊ぶことが人間性の基礎であることの視点に立ち、以下のように基本方針を定め、これを実践し、具体化するために、乳幼児一人ひとりの主体性（自立性・自立心・自律性）を重んじ、社会性の芽生え（協調性・連帯性・責任意識）を育て、個性が伸びる創造性（興味・集中力・探求心）のある子どもを育成することを目標とする。

<基本方針>

1. 心の清い正直な人間（良心教育）
2. 心の豊かな明るい人間（情操教育）
3. 体の丈夫な強い人間（健康教育）
4. 動作の機敏な人間（安全教育）

2. 2020年度の重点課題

1. 保育教諭の質の向上を図り、質の高い保育を継承していく。
2. 現場職員の勤務環境の見直し
3. 1号認定入園者を確保する
4. 危機管理対応に対する研修の充実

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

（※評価はA(80%) B (70%) C (60%) D (やっではみたが成果としては50%) E (全く手つかず) で表している

〔学校評価取組の目的〕

- 学校（こども園）として組織的・継続的な改善を図ること
- 学校（こども園）・家庭・地域の連携協力による園作りを進めること
- 一定水準教育の質を保証し、その向上を図ること

〔評価〕

- ① 自己評価は、当こども園の他職種によって（保育教諭、栄養士、看護師、事務職員、一時預かり専任者等）行い、設定した目標や計画に照らし、その目標の達成状況や取り組みの状況について評価を行う。
- ② 学校評価関係者評価はマリヤこども園に在籍する園児の保護者代表と姉妹園の園長他、地域住民等が自己評価の結果に基づき、評価と助言を行う
評価委員（民生委員：山野洋司、民生委員：鈴木寛昌、保護者会会長：田中真奈美、保護者会副会長：廣田有紀、千葉県千葉特別支援学校教諭：熊崎友希、姉妹法人昭苑こども園園長：堀口義也）

※ 2021年1月5日 内部自己評価実施、2021年1月30日学校関係者評価実施

評価項目	具体的な取り組み	自己評価					学校関係者評価委員会					
		評価					評価					
		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	
保育教諭の質の向上	保育環境の充実を図る …個々の育ちや学びを支えるために必要な環境を整えていくことに力を入れる	5	6	1			<ul style="list-style-type: none"> ・努力しているものの、個々の育ちや学びを支える環境はまだまだできることはあるのではないかと。より深く勉強が必要 ・計画した後の進みが遅くなったり途中になってしまうことがあったので最後まで行う 	1	5			<ul style="list-style-type: none"> ・工作や折り紙等、自分のやりたいことを決めてやっている子どもから聞いていて、とてもありがたいと思っています。 ・いつも新しいアイデア、子ども達のことを思ってご指導して下さい事に感謝しています。
	室内遊具、生活用品を整え、子ども達が主体的に遊び、生活する環境を室内外において整える	4	7	1			<ul style="list-style-type: none"> ・各年齢、個人の遊びを深めるには「遊び」についてもっとよく考え、学ぶ必要があるのではないかと ・戸外玩具等の要望をしっかりと伝えられなかった ・破損したものの片付けや直しができているところもあるので、しっかり確認して行う 	2	3			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと一緒に遊びを考えると、大人にはない考えや支店があり、より楽しめる遊びが見つかるかもしれません ・丁寧に拭いてきれいにしてくれたり、昔から見ているので信頼しています
	会議内容の中にブログやクラスだよりを通してクラスをより深く見つめ、子ども理解に努める機会を設けていく	8	1	2		1	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が意識的に取り上げて発信できるような基盤はできたが、子ども理解の為に共有する機会を設けることが出来なかった ・お便り作成者のみの理解にとどまっていた（クラスリーダーの配慮ミス） 	2	3	1		<ul style="list-style-type: none"> ・可視化されたものを見ても、解釈は人それぞれなので、伝えたいことを伝えるための言語化を大事にし、価値観を共有してもらえると良い ・おたより、白黒の写真は少し見えづらかったです。 ・個別にコメントがあった方が嬉しいです
	配慮を要する子どもについて、専門機関との連携を密にし、職員全体でその子ども支援をしていく	4	5	3			<ul style="list-style-type: none"> ・適切な理解、支援、環境調整、治療に至っていない ・少しでも変化が見られた時は、園長に報告をし、専門機関に連絡を入れている ・クラスを越えて幼児組というくりでは話し合いにより共通認識ができ、子どもへ関わることが出来ているが、全体でとなるとまだ欠けている 		5	1		<ul style="list-style-type: none"> ・職員によって対応が変わったり、優先課題が異なると、子どもが混乱するので、園全体での共通の対応が図れると良い ・インクルーシブ教育システムがこれから進められていくので、その当たりも全職員の知識として必要になってくる ・全職員が統一した支援対応ができると良い ・周りに痛みを与えてしまうようなら心配ですが、今まで見ていてうまく皆の中に入れていくように感じます
	部門ごとの会議を定期的に行っていくことを軌道に乗せる （幼児会、乳児会、給食会議、コミュニティ会議、リーダー会、他）	8	4				<ul style="list-style-type: none"> ・部門ごとの会議は半分軌道に乗ってきているが、部門によっては定期的に行かないこともあるので、更に力を入れていく必要がある 	5	1			<ul style="list-style-type: none"> ・会議の持ち方：リーダーを軸とした縦の情報伝達だけでなく、クラス全員が集まって横の連携を深める会議も必要かと思えます。会議では、基本的な人間関係作りができているか確認してみてください。それが保育の質を支える土台になります。 ・議題を事前に提示することや課題の精選をし、時間の短縮につなげていく ・日常の職員のつながりの中で解決できていくことも沢山出てくると思う
	保育計画が事前できるように早目の話し合いの場を計画していく	5	6			1	<ul style="list-style-type: none"> ・早めの取組ができつつある ・昨年度よりは時間が取れるようになってきている ・クラス内職員同士の話し合いの時間が少々不足していた 	2	4			<ul style="list-style-type: none"> ・年間での計画が立つことで、つながりのある保育につながっていくので継続してほしい
	職員のキャリアアップ研修参加を目指す	10	1	1			<ul style="list-style-type: none"> ・職員が少ない中でも積極的に参加申し込みをし、既に終了済の職員もいる ・可能な限り行えているので、今後はフィードバックできる時間を作り、個人の学びを園の学びとしていけるように次の段階に進みたい 	6				<ul style="list-style-type: none"> ・何が重要だったのか、それをどう実現したらいいかわからない状態の職員が多いので、報告会や話し合いで実現方法について考え合ってもらいたいと思います。 ・職員数がギリギリの中での研修は大変ですが必要ですね。その研修で得たものをどのように職員におろしていくのが今後の課題

評価項目	具体的な取り組み	自己評価					学校関係者評価委員会						
		評価					評価						
		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E		
保護者との連携と育児支援	子どもの園での様子を可視化し、より園での様子や子どもの育ちをわかりやすくする	10	1	1			・乳児組はカリキュラムにて、幼児組はクラスだよりにて以前より可視化できてきた ・ブログにはクラス毎に偏りがあった ・PCやIPADの環境は整ってきているので、職員の意識と機械に慣れることが課題	4	2				・可視化により何を伝えたいのか。見えているようで見えていない遊びの深まりや心の成長を言語化して伝えることが重要だと思います。（行事のねらいや鼓隊、日舞の狙いなど、情報の先取り提供も大事だと思います） ・伝えようとしてくれる園の姿勢はありがたいです。 ・ブログの方が見やすいという意見もあるようですが、文字だけのお便りよりも、写真が多いと子どもと一緒に見られるお便りになるので良いと思う
	行事のアンケートや個人面談等で保護者の思いを確認するとともに、保護者と共に子どもの成長を喜び合いながら育児支援を行っていく	10	2				・コロナで制限はあったものの、個人面談は行うことが出来た ・行事は動画配信に切り替えたこともあり、アンケートは運動会のみとなってしまったため、保護者からの声は個人面談時に終始してしまっただけで、今後アンケートも行事のみに限らず保護者の声を拾ったり、保護者のニーズを拾うツールとして検討していく	5	1				・保護者の管内入場制限の中、どのように成長を共に喜び合えるのかを考えて下さい。 ・10分の個人面談は短いかなという印象です。 ・行事を開催し、参観ができるようになるために、保護者アンケートなどを活用するのも1つの方法かと思う ・先生方がよく個々を見て下さっているのが面談で分かります
	給食だよりの毎月の発行を目指し、生きる力の原動力となる食への意識を保護者も子どもも高めていけるようにしていく。	10	2				・6月からは毎月発行することが出来た ・食への意識についてはもう少し各クラス担任も意識的に発信しても良かった	5	1				・給食だよりは親しか見ないのですが、食育活動を子どもも楽しみにしています。 ・「生きる力の原動力」として伝えていくのは難しいと思うが、食べることの大切さを伝えていってほしい
	少しでも子どもとの時間を持てるように、また保護者の育児への意欲を高めていけるように絵本貸出コーナーを充実させていく。	11		1			・本が好きな子は定期的に借りていく ・職員のお薦めの本も紹介したり、コーナーとしての充実は少しずつ出来ており、定期的に借りていく園児も増加傾向にある 担当職員を決めることにより、職員の絵本に対する意識向上にもなったように感じる	4	2				・園の思いをもっと保護者に伝えると良いのではないのでしょうか。園の思いをしっかりと言語化して伝えると良いと思います。本の貸し出しがコロナ禍の中NGであれば本の紹介や活用例等、情報として提供したらよいと思います。絵本は喜んで借りて帰ってきています。もう少し沢山あると良いです！貸出中が多いです… 送迎だけの短い時間では目立ちにくいこともあるので、もっとアピールしても良いと思う

評価項目	具体的な取り組み	自己評価					学校関係者評価委員会						
		評価					評価						
		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E		
改 善 員 の 図 処 る 遇	有給休暇率の向上を目指す	6	6				・法律で定められた5日分も含め、職員配置に支障をきたすことがない限り、申請を認めている。 ・希望通りに取得できている（希望を出している） ・取得している職員に個人差があるのは、取得できる環境があるのに希望を出していないから	3	2	1			・有休が使える環境がうらやましいです。本当に大事です。 ・学校では子どもが帰ってからの休みを取る人が多いです。
	十分な休息をとり、仕事とのバランスが取れる職場環境を作る。（職員の休憩時間を確保する）	7	5				・園内にコーヒーマーカーを設置し、リラックスできる職員が増えた ・日によって休憩が取れないこともあったが、各自の意識及びクラス内の時間の使い方の見直しで可能になることも考えられるので、特にリーダー中心に休憩をとれるように時間配分をする意識を高めていく ・昼休憩をとれるようになり、体力的にも精神的にも良くなった	3	3				・シフトのように時間を決めていかないと休憩を取らない職員もいます
	園長面談の実施	9	2				・忙しい中でも時間を作って下さっている ・定期的及び随時で機会を設けられている ・面談により振り返る場を持っている	6					
	効率よく事務業務作業や書類整理を行い、勤務時間内で仕事が終えられるようにする	7	3	1	1		・引継ぎが十分にできなかった（給食室） ・新ソフトへの対応に時間がかかってしまった ・土曜の調整のみでは不可能 ・大分できてきていると思う ・同じ時間の中での各自の時間の使い方の問題 ・土曜日に書類整理の時間を持てるようになったのは感謝 ・組み立てや使い方がうまくいかない面があるので、クラスリーダーの仕事の割り振りや段取りの仕方による部分も往々にして感じられることが今後の課題	3	1	1			・今は消毒等のプラスの仕事があり、より大変だと思います。コロナも今のところ園では何もなく過ごせていてありがたいです。 ・事務作業大変だと思うが、不必要なもの（昔から何となく続いているようなもの等）は思い切って削っていくことも検討しても良いのでは。
園 児 募 集	園児募集の告知方法の見直し	4	6	2			・ホームページの更新が遅い ・告知方法はまだまだあると思うので検討していく	1	3	1			
	一時預かりやプレ保育を広く紹介していく	8	3	1			・広告を作り、店舗等にも協力を求めるようにした。 ・担当職員のみではなく、チラシポスティング等に協力してもらうことにより、園内の事業を担当のみではなく園としての取組としての認知を広げることにもつながった ・取組は頑張っているが、認知度がいまいち	4		1			
地 域 へ の 取 組	非課税団体の社会福祉法人としての公的な取り組みをする。 (外国籍の方々の相談窓口を作る) (小学生の居場所作り等) 地域交流枠を広げる	9	2		1		・離乳食等は需要が少なく感じるので、今後は高齢者向けの教室も検討の余地有 ・小学生対象の取組は認知度参加率増加中。定着化していく ・コロナの影響で交流自体は難しいが、活動内容や開催方法の検討を深め、さらに広げていけるように中長期的に検討していく ・コロナの影響があってもできる範囲で取り組んでいる	6					・虹の広場は我が子も小学生になったら行きたい！といつも広告を見ながら言っています。 ・米本「ほっこり」やマリヤの活動と米本幼稚園との連携を図りながらかつ度を深めていけると良いですね。

評価項目	具体的な取り組み	自己評価					学校関係者評価委員会									
		評価					評価									
		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E					
危機管理	車が園庭に出入りする時間の危険について、クラスで定期的に取り上げ子ども達の安全に対する意識を高める	5	2	2	2			2	2	1	1					<ul style="list-style-type: none"> ・ 危険だなと感じることはありません ・ 先生と話をしていたり、子どもがスムーズに出てこなくて渋滞することがある ・ 子どもが園庭を走り回っていることがあり、危険を感じる ・ 保護者の意識も変わってほしいですね
	感染症やアレルギー発作に対応する実践研修を行う	10	2					6								
	コロナウイルス感染症水際対策に努める (情勢に応じて敏感に反応し、柔軟に対応する)	9	2	1				5	1							<ul style="list-style-type: none"> ・ 密を避けるのは難しい状況の中、先生方が工夫してやってくださっていると思う。 ・ 卒園式や行事など、せめて年長組の保護者だけでも参加できるようにしていくために、開催方法などを検討してほしい
	緊急時の対応を職員共通の理解とし、いつでも対応できるようにする	7	5					4	2							<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際場面設定をして、どう対応するかをシミュレーションしていくだけでも何か起きた時に対応の混乱が減ると思う